







### 活動の発端

繁盛（はんせ）地区は、兵庫県宍粟市の最北部に位置し、揖保川源流域に位置する人口900人ほどの里山。かつては林業や農業、養蚕、素麺業などが発達し活気もあったが、現在は都市部への人口流出や少子化により急激に過疎高齢化が進んでいる。

「何かをしないといけない」とこの地域は消滅してしまう、何とか地域を守っていく方法がないか」と集落単位では早くから危機意識を持って集落の維持に努め、平成28年に繁盛地区まちづくり組織として、More繁盛（モアハンセ）を設立した。

2020年8月頃にはNPO法人More繁盛（以下、More繁盛）として法人運営できる体制を整えており、現在はNPO法人としての社員11名（うち理事6名）と阪神間からの若者（関係人口）に加え、スポット的に地元の方々の支援を得ながら活動している。

### 繁盛地区の特産品の6次産業化

地域の新たな特産品として、「ひょうご安心ブランド」の認証を取得した減農薬のコシヒカリ、2018年から生産にチャレンジしている農薬肥料不使用（無農薬）でのイセヒカリ、これら二つのお米を「繁盛米」としてブランド化した。

標高500メートルの草木集落で清らかな空気の中、地元の人とボランティアの方が集まって、手もみで製茶を行う「桑茶づくり」。50年以上たつ古木の桑の木を活かし、新鮮な桑の葉を薪火で蒸して、手もみで製茶する「桑茶」は、香りと味が良いのが特徴だ。

2020年2月からは、繁盛米+緑茶（古代米）をブレンドした、無添加・手作りで生産する「甘酒」の販売も実現。市販の甘酒の中ではかなり高価で本数は少ないながらも、神戸や姫路の都市部の物産館で販売は順調に実績を積んでいる。

More繁盛の特産品は「他にはないプレミアムなごだわりのモノ」をテーマに日々商品開発を企画している。「少量生産でもしっかり

と利益の出る仕組みづくり」が、今後の組織継続の重要なテーマだと考えている。自分たちで販路を作るために営業活動やネット販売、Instagram、FacebookなどのSNSを活用し、個人とのつながりを大切に「6次産業化」を少しずつ進めている。

### 阪神間からファミリー層や外国人が参加しての自然体験事業

2019年4月より、廃校となった旧繁盛小学校（2016年廃校）をMore繁盛が宍粟市より借りて、「事務所設置及び収益事業の拠点」として活用している。

More繁盛の1つの収益の柱となっているのが、「四季を感じながら行う自然体験事業」。4月：たけのこ掘り、6月：無農薬米の田植え、8月：田んぼの草取り作業とそうめん流し&鮎掴み取り、10月：手刈りでの稲刈り（雨天時：ひょうたんランタンづくり&もちつき体験）がある。

旧繁盛小学校の校舎・体育館・目の前の田んぼや揖保川をフルに活用して一日中繁盛の自然を満喫できる内容となっている。食事は、More繁盛のスタッフや地元の方に準備は頼むが、全ておもてなしをするのではなく、「参加者と一緒に食事を作る」ことで、スタッフの負担を軽くできるように工夫している。

2020年は新型コロナウイルスの影響で中止したが、2019年は阪神間からファミリー層や外国人にも参加頂き、1イベント50人程度、年間延べ140名ほどの参加を頂いた。

### 集落機能の移転と地元住民×関係人口の憩いの場づくり

従来、繁盛地区の連合自治会を中心に運営され、集会や、健康体操、PC教室などが行われる「センター繁盛」という施設の閉鎖が宍粟市により打診されていた。今回の旧繁盛小学校の改修条件として、「センター繁盛の機能移転及び閉鎖を含めること」で改修費用である助成金を使用できるようになった。このため、旧繁







盛小学校の改修には、地元住民の集会の場所となる会議室、健康体操などを実施できる大和室（24帖）などを盛り込んだ。

また、More繁盛が主催する「秋穫祭」を改修前の小学校で実施し、地元住民の約220人に参加頂いた。More繁盛の出店ブース、懐かしの給食を再現した教室喫茶、地元住民の有志による出店などで盛り上がった。この秋穫祭にて、地元住民に対する小学校の活用計画を説明し、More繁盛の活動拠点と今後のバイカーをターゲットとしたゲストハウスを作っていくことを説明した。

**繁盛という縁起の良い地名をブランド化し  
観光の拠点（ハブ化）へ**

繁盛地区には、観光資源となる有名な文化財や名所はないが、姫路や朝来、伊根などの景観や歴史、文化を好むバイカーや外国人をターゲットとし、兵庫県の観光名所のハブ（経由の中心地）として、2021年4月に旧繁盛小学校を改修しゲストハウス繁盛校としてOPENさせた。

そのために、繁盛地区のみでPRするのではなく、すでに多くの観光客を誘致している他地域に積極的に営業活動を行い「繁盛の里山と他の地域をつなげ」相互で観光客の移動が行われる仕組みを作りたいと考えている。

最近では、大阪・神戸などから、20代〜40代の若者が定期的に通うようになり、宍粟市協働まちづくり推進モデル団体として認定されたMore繁盛と、ここ繁盛にしかないアイデアを形にするため協力している。

新しく設計するよりも、その里山に昔からあるものにアイデアを添えて付加価値をつける「里山ブリーコラージュ」の思想を取り入れ、「繁盛という地名」「縁起モノの瓢箪」「関係人口にオープンな田舎」を目指して取り組んでいきたいと考えている。

「おもしろき、繁盛をもっとおもしろく!・・・」